

令和7年度 学校評価(年度末評価) 大田市立第三中学校

領域	重点目標	中期目標	具体的な取り組み	評価指標	指標に関する評価	①達成状況 成果○と課題●、その他△	②来年度に向けて	③学校運営協議会委員の方より
学びに向かう力を身につけ、主体的に学ぶ生徒の育成	基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着	生徒一人一人の特性に応じた細やかな指導	生徒一人一人の特性・個性・適性を見極めながら、進度に応じた教材と学習環境を提供する。	教職員肯定的評価80%以上(1-1) 生徒肯定的評価80%以上(1) 保護者肯定的評価80%以上(質問1)	A	○特性に応じた指導をすることができた。	・生徒指導日報を活用し、情報を共有する。 ・個に応じた対応を引き続き行う。	
	思考力・判断力・表現力の育成	能力ベース型授業による主体的で深い学びの実現	各教科・道徳等において、能力ベース型授業の視点で授業改善を行い、実践することができたか。	教職員肯定的評価80%以上(1-2) 生徒肯定的評価80%以上(2) 保護者肯定的評価80%以上(質問2)	B	○教職員が意見を共有する時間をしっかりと設けている。そのため生徒同士の対話的な活動ができています。 ○講師を招いた授業を通して新しい事・物にふれながら、対話することによりコミュニケーション能力を高めるきっかけになった。 ●意欲的に取り組めるような導入・展開のある授業構成の考案	・学習することによって「自分の能力がどのように伸びていくのか」「学びがどのようなところに役立つのか」が実感できるような授業構成にしておく。 ・実態に合わせた授業の導入を考える。生徒が興味・関心をもった導入を共有する。	生徒タブレット端末など、ICTを活用した授業実践を行うことで、学力の向上と主体的に学ぶ生徒の育成につなげてほしい。
		主体的・対話的な授業づくりを通しての授業改善	生徒が互いの思いや意見を大切にしながら、ペアやグループの話し合いに、意欲的に参加できる授業づくりを推進する。	教職員肯定的評価80%以上(1-3) 生徒肯定的評価80%以上(3) 保護者肯定的評価80%以上(質問3)	A			
		多様な他者との関わり(出前授業や外部講師との授業実践)	学校外の方との関わりを通して、学校では知ることのできない知識や技能を身につけ、コミュニケーション能力を高める。	教職員肯定的評価80%以上(1-4) 生徒肯定的評価80%以上(4) 保護者肯定的評価80%以上(質問4)	A			
	学びに向かう力の育成	授業での「めあて」の明示と「振り返り」の徹底	生徒が学ぶことに興味・関心を持ち、見直しをもって粘り強く学習に取り組み、自身の学びを振り返り、次の学習につなげる。	教職員肯定的評価80%以上(1-5) 生徒肯定的評価80%以上(5)	B	●めあて・授業の流れの提示、振り返りを行っているが、自身の学びを振り返り、次の学習につなげるには至らなかった。	・生徒の振り返りが、次回の授業に生かせるような仕組みを考える。 ・前時の自分の振り返りを読む時間を本時に組み込む。	
	家庭学習の定着・習慣化	予習・復習が活かされる授業づくり	学びと家庭学習の一体化を意識し、生徒の実態に合わせた授業作りに取り組む。	教職員肯定的評価80%以上(1-6) 生徒肯定的評価80%以上(6) 保護者肯定的評価80%以上(質問5)	C	●生徒が自ら授業内容を振り返り、次の授業を意識して家庭学習に向かえるような課題を提示することができなかった。 ●ホワイトボードを活用し、計画的に課題を提示することができたが、生徒が家庭で計画的に学習に取り組むような手立てを講じることができなかった。	・家庭での学習が授業の中で生きてくるような仕組みを考える。 ・家庭学習の状況をこまめに確認する。面談で家庭での学習状況について確認し、保護者からも課題内容の確認をしてもらう。	家庭との連携が大切。丁寧に説明をしたうえで、学習することに主体的に取り組むことができるよう継続して指導してほしい。
		家庭学習の習慣化に向けた取組(見える化)	宿題ボードやきずなノートを効果的に活用し、計画的に家庭学習に取り組む習慣の定着を図る。	教職員肯定的評価80%以上(1-7) 生徒肯定的評価80%以上(7) 保護者肯定的評価80%以上(質問6)	C			
	図書館活用	学校図書館を活用した授業実践	学習への興味・関心を高め、情報活用能力を育むために、学校図書館を活用した授業を推進する。	教職員肯定的評価80%以上(1-8)	B	○「学校図書館利用の推進」について、肯定的評価が教職員100%、生徒82.5%であった。 ●「学校図書館を活用した授業実践」について、肯定的評価66.6%であった。学校図書館の活用がしやすい教科とそうでない教科がある。活用の機会が少ない教科に向けて、十分な情報発信ができなかった。	・単元の導入に使いやすそうな本の紹介を行う。 ・情報活用能力の育成に関係する研修内容を、職員会等で共有する。 ・学校図書館を活用してもらえそうな単元を、年度末にアンケートでとってみる。	
		学校図書館利用の推進	他館と協力し、生徒の興味や教科の内容に応じた資料を充実させることで、読書活動・学習活動を推進する。	教職員肯定的評価80%以上(1-9) 生徒肯定的評価80%以上(8)	A			
	自他を尊重し、多様な他者と協働できる生徒の育成	道徳教育の充実	計画的・発展的な指導の充実	年間指導計画や別業を利用して計画的に指導にあたる。常に学級の実態に合わせ、より適切な教材の選出を工夫する。	教職員肯定的評価80%以上(2-1) 生徒肯定的評価80%以上(9) 保護者肯定的評価80%以上。(質問7)	A	○計画的に道徳教育が行われている。 ●それぞれが使用しているワークシートを通して、考え方の変容や道徳的な態度の伸長を確認したが、「学びの軌ファイル」を活用した評価の工夫ができているかは分からない。	・ワークシートの回覧 ・「学びの軌ファイル」を活用した道徳評価の確認が有効であるのかの検討
学びの軌ファイルを活用した評価の工夫			道徳の授業で話し合ったり、考えたりした内容を記入して記録を集約し、心や考え方の変容や道徳的な態度の伸長を確認する。	教職員肯定的評価80%以上(2-2) 生徒肯定的評価80%以上(10) 保護者肯定的評価80%以上。(質問8)	B			
人権・同和教育の充実		職員研修の推進	外部講師を招聘や校内の人権・同和教育研修を職員会議等で計画的に実施する。	教職員肯定的評価80%以上(2-3)	A	○教職員の肯定的評価が100%であった ○人権集会や職員会議でのハラスメント研修などを行い人権意識の涵養に努めた	・外部の方の講演等を通じて、人権感覚を磨く活動を行う ・職員会議等を通じて、職員研修を定期的に行う	
		系統的な人権・同和学習を通じた人権意識の確立	人権課題をテーマにした全校生徒対象の学習に取り組む。	教職員肯定的評価80%以上(2-4) 生徒肯定的評価80%以上(11) 保護者肯定的評価80%以上。(質問9)	B	○教職員、保護者の肯定的評価が100%であった ●生徒の肯定的評価が80%未満であった	・道徳を中心としたすべての教育活動の中で、他者との違いを認め合ったり尊重したりする姿勢の涵養に努める。 ・「違いを認め合える社会」をテーマに、普段の生活の中で自分ができることを考える機会を設ける。 ・上記について、実際にどうだったかを、終礼や道徳の時間等で確認し、実践意欲を高めるよう努める。	
		保護者・地域への啓発(人権集会・交流学習)	人権学習の成果を学校だよりで発信する。	教職員肯定的評価80%以上(2-5) 保護者肯定的評価80%以上(質問9)	A	○教職員、保護者の肯定的評価が80%以上であった ○学校だよりに人権学習の取り組みを載せていただいたことで、広く周知をすることができた	・学校だよりや学級通信、定期面談等を通じて取り組み内容を知ってもらう	
学校行事や生徒会活動の主体的な取組		生徒会執行委員会を中心とした活動の充実	本校の特色ある活動(窯芸活動や全校劇)を縦割り班で行い、生徒の自主的な活動意欲を高める。	教職員肯定的評価80%以上(2-6) 生徒肯定的評価80%以上(12) 保護者肯定的評価80%以上。(質問10)	A	○教職員、生徒、保護者すべてにおいて肯定的評価が100%であった。 ○目標を意識しながら特色ある活動を生徒主体で行えた	・行事ごとの際、職員の声掛けや手助けは最小限にし、生徒の主体性を育めるようにする	
地域貢献への取組		窯芸作品の制作	地域の方への感謝の思いを窯芸活作品に込めて送り届ける。	教職員肯定的評価80%以上(2-7) 生徒肯定的評価80%以上(13)	A	○教職員、生徒の肯定的評価が100%であった。 ○生徒の提案を参考に、文化祭で窯芸作品の販売を行った。自分たちの活動を知ってもらうとともに、地域への感謝の思いを示すことができた。	・目的意識をもったうえで、自分たちの活動を地域に発信する方法を生徒主体で行っていく(生徒会活動として)	
自らの生きる生活を生徒コンテロ	キャリア教育の充実	職場体験や上級学校調べ、職業調べ等の実施	職場体験学習・上級学校調べ・職業調べ等の活動を行い、自らの適正にあった進路選択について考える。	教職員肯定的評価80%以上(3-1) 生徒肯定的評価80%以上(14) 保護者肯定的評価80%以上(質問11)	A	○「職場体験～」の項目で、教職員の肯定的評価が100%であった。	・年度初めに立てた1年後の自分の姿を、教室のよく見える場所に掲示する。 職業だけでなく、社会との関わりや父・母などの役割について学習する機会を設け、生徒一人一人が自分らしく豊かで幸福な人生を歩むことのできる力を育ててほしい。	
		学校行事での自己目標の明確化と達成感	年度当初に立てた目標を意識しながら、行事ごとに「目標・振り返りシート」を作成し、目標立て・振り返りを行う。	教職員肯定的評価80%以上(3-2) 生徒肯定的評価80%以上(15)	A	○「学校行事～」の項目で、教職員・生徒いずれも肯定的評価が100%であった。 ●「学びの軌～」の項目において、教職員の肯定的評価が75%、生徒の肯定的評価が50%であった。 △生徒は学期ごとに具体的な個人目標を教室に掲示したが、効果があっただろうか。		
		学びの軌(キャリアパスポート)の活用	1年後の自分の姿について、具体的に目標を立て、各学期に反省を行い、最終目標に近づけるようにキャリアパスポートを活用する。	教職員肯定的評価80%以上(3-3) 生徒肯定的評価80%以上(16)	C			

自らの生活をコントロールできる生徒の育成	セルフコントロール力の育成	規則正しい生活習慣の定着・意識の向上	生活シャキッと週間や保健指導(教科等含む)、日々の生活指導とともに、振り返りを実施し意識の向上を図る。	教職員肯定的評価80%以上(3-4) 生徒肯定的評価80%以上(17) 保護者肯定的評価80%以上。(質問12)	C	○教職員(77.7%)保護者(100%)の肯定的評価が高かった。 ●生徒の肯定的評価が50%で前回より37.8%低く、大人の評価とずれがあった。	・意識の低下がみられる。 ・シャキッと週間の事前事後指導を継続。個別のケースについても引き続き実施する。 ・体の構造やメカニズムから関心を持たせるような内容にする。 ・家庭内でのメディアに関するルール作りとその徹底について、懇談などで話題にする。	生活習慣の定着もしくは改善には、時間がかかる。幼少期からの積み重ねが大切であると考え、保育園(幼稚園)と小学校、中学校の縦のつながりを強化し、時間をかけて取り組んでほしい。今後も、保護者・地域とも連携して取り組んでほしい。
	一人一人の生徒理解を基盤とした生徒指導の充実	一人一人の生徒理解を基盤とした生徒指導の充実	日頃の情報交換や生徒観察等により、生徒一人一人のよさや頑張りを認めるとともに、悩みや困難さを把握し、声かけや支援を行っている。	教職員評価80%以上(3-6) 生徒の肯定的評価80%以上(18) 保護者の肯定的評価80%以上(質問13)	B	○教職員、保護者の肯定的評価が高かった ●評価指標(生徒)が75%だった(「分からない」と回答した生徒が25%)	・多くの生徒が肯定的な評価をしていた。引き続き、職員間で連携・共有に努めつつ、積極的な生徒指導に努めていく。 ・生徒アンケートやQUアンケートを効果的に活用し、生徒の不安感や悩みに対してアンテナを高くもって接する。 ・外部機関(SC、SSW等)とも連携を取りつつ、個別の支援の充実にも努める	現1年生は、1年後、大田西中もしくは大田一中への通学が予想される。生徒が主体的に選択できるよう、交流活動や学校間の情報交換を綿密に行うなど、丁寧に取り組んでほしい。 また、閉校、新しい学校への通学を前に、不安を抱える生徒も増えることが予想される。これまで以上に、一人一人に向き合った丁寧な生徒指導をお願いしたい。
		指導体制の確立と共通理解による指導の充実	生徒指導日報や教育相談、生徒観察等により、生徒一人一人の悩みや困難さ、問題行動を把握し、組織的に指導・対応する。	教職員肯定的評価80%以上(3-7) 生徒肯定的評価80%以上(19)	A			
規範意識の醸成	学校の決まりやルールを守った学校生活	自ら判断して行動する機会を多くするとともに、挨拶や言葉遣い、時間を守るなど、必要に応じて、指導を行う。	教職員肯定的評価80%以上(3-8) 生徒肯定的評価80%以上(20) 保護者肯定的評価80%以上(質問14)	A	○教職員、生徒、保護者すべてにおいて肯定的評価が高かった	・挨拶や時間厳守などをよりよくしていくために、職員側からの指導だけでなく、生徒同士で声を掛け合って高めていくようにする。(生徒会とのタイアップ) ・タブレットの正しい使用方法について、全校集会等を通じて確認する。		
地域に開かれたよりよい学校づくりの推進	学校教育目標の実践	学校経営の重点に基づく各分掌及び学年・教科経営	学校経営の重点をもとに各分掌運営、学年・教科経営においてPDCAサイクルをまわす。	教職員肯定的評価80%以上(4-1) 保護者肯定的評価80%以上(質問15)	A	○昨年度同様、PTA総会など様々な場面で、「想像力」をキーワードに、学校経営の重点を説明し、教職員もそれを意識した教育実践に努めた。 ●めざす生徒像に近づいた部分と、まだまだ十分でない部分も見られる。	・次年度は閉校に向けて様々な行事や地域からの要望も増えることが予想される。あれもこれもではなく、保護者・地域・教職員の共通理解がこれまで以上に図られ、より学校経営の重点を見据えた教育実践を行いたい。 また、コーチングの手法を取り入れながら、生徒の主体的な活動を促したい。	学校評価の評価指標は、生徒・保護者が少ないため、一人違うだけでも大きな影響がある。評価指数の変動にとらわれず、これまで通り、自信をもって教育実践を行ってほしい。
	情報発信	HPや学校便りによる保護者、地域への情報発信、学校図書館の開放	学校・学級だよりの定期的な発行、PTA総会や面談での情報発信。特に学校だよりは地域へ配付する。	教職員肯定的評価80%以上(4-2) 保護者肯定的評価80%以上(質問16)	A	○学校便りやHP等により、学校行事や教育活動を定期的に発信することができた。 ●県や市等から、安心メールを使った情報発信の依頼が多いように思う。大切な情報もあると思うが、本当に大事な情報が埋もれてしまわないか、心配である。	・どうしても伝えなければならない情報を選び、できるだけ情報過多とならないよう気を付けたい。	
	教育環境の整備	施設設備の保全	清掃活動の意義について生徒の理解を深めるとともに、生徒への指導を丁寧に行う。	教職員肯定的評価80%以上(4-3) 生徒肯定的評価80%以上(21)	A	○年5回の安全点検を実施し、補修等必要な場合は、適宜対応、教員委員会へもお願いすることができた。校舎内外の整備も、校務技能員を中心に、円滑に行われていた。 ○自分の担当以外に、欠席者の担当を行うなど、生徒は進んで清掃活動に取り組んでいる。 ●予算の面で、補修が行われていない箇所もある。	・閉校するため、最小限の補修にとどまる可能性もあるが、安全確保上必ず必要な箇所については、引き続き、教育委員会へお願いしていきたい。	生徒の安全確保のため、補修等、教育委員会へ要望し、しっかりと行ってほしい。
			校舎内外の安全点検を定期的に行い、危険箇所を修繕するなど、危険等の未然防止に努める。	教職員肯定的評価80%以上(4-4)	A			
		教材費の適切な保護者負担	保護者負担の軽減を図り、集金した経費や購入した教材等について有効に活用する。	教職員肯定的評価80%以上(4-5) 保護者肯定的評価80%以上(質問17)	A	○別に実施している教材費の振り返りでは、ほぼすべての教科で活用できたという結果になっており、購入した教材は有効に活用できている。また、一部市費やPTAで負担しているものもあり、引き続き保護者負担軽減に努める。	・保護者負担の副教材については、デジタル教科書もあるので必要かどうかそれぞれの教科で再考する必要もある。	
	地域との連携	地域行事への積極的な参加		生徒肯定的評価80%以上(22) 保護者肯定的評価80%以上(質問18)	A	○学校行事において、地域の方にお越しいただいたり、授業の講師として依頼したり行った。生徒の感想やアンケートからは、ふるさとへの愛着が高まり、地域行事等への参加も一層進んだ。 ●ふるさとへの愛着が高まり、地域行事等への積極的な参加も一層進んだ。しかし、自分の成長や地域・社会貢献への意識向上を実感するまでには至っていない。学校評価アンケートで問われていることを、生徒は十分に理解できていないのではないか。	・生徒に対し、学校行事や授業におけるねらいを明確に示すとともに、活動後の振り返りにおいて、成長や意識の向上を実感できる取組(振り返りシートや授業のまとめ)を工夫する。学校評価アンケートの文言をより分かりやすくする。	今後も、保護者、地域の一員として、学校に協力、支えていきたい。生徒の生の声を、そして、対話の中から生徒のチャレンジを支える取組を行いたい。
保護者、地域の力を活用するとともに、地域や保護者の願いに対する適切な対応			行事など様々な活動において地域講師を積極的に活用する。 保護者との面談やPTA役員会、学校運営協議会など、地域・保護者との話し合いを定期的、あるいは随時実施する。	教職員肯定的評価80%以上(4-6) 保護者肯定的評価80%以上(23) 生徒肯定的評価80%以上(質問18)	B			
保護者との面談やPTA役員会、学校運営協議会など、地域・保護者との話し合いを定期的、あるいは随時実施する。			教職員肯定的評価80%以上(4-7) 保護者肯定的評価80%以上(質問19)	A				
危機管理体制の確立	危機管理能力の向上	避難訓練を実施し、振り返りにより教職員と生徒の危機管理意識の向上に努める。	教職員肯定的評価80%以上(4-8) 生徒肯定的評価80%以上(24)	A	○校内研修を計画的に実施し、県内外において不祥事が起きた時には、職員朝礼等を利用して注意喚起を行い、服務規律の徹底を図った。不審者対応訓練など、避難訓練もしっかりと行い、生徒・教職員ともに、冷静に対応する態度を身に付けることができた。	・次年度も、校内研修や避難訓練を計画的に行いたい。		
		教職員の服務規律の確保について、朝礼時の呼びかけや校内研修を実施する。	教職員肯定的評価80%以上(4-9)	A				
業務改善の推進	勤務実態把握と業務の効率化・適正化	タイムカード・部活動報告による状況把握・改善	毎月の出退勤状況や部活動の状況を把握し、本校独自の取組を検討し、実施する。	教職員肯定的評価80%以上(5-1)	A	○勤務時間外の会議がほとんどなく、時間内に業務を終えるという意識が教職員に定着してきているのではないかと感じる。 ○フォームについては概ね活用できている。 ●校務DXについてはハード面の環境の制約もあるため、なかなか活用できていない。	・閉校に向けて、業務量の増加や地域連携も一層重視しなければならない。仕事と家庭の調和、教育の質的向上のため、教職員・保護者・地域の理解・協力を得ながら、学校行事や業務の精選・効率化を進めていきたい。 ・効率的に進めるにはどうしたらよいか、効率的に業務を進める手立てや工夫の共有化を図る。 ・生徒用端末が更新されるので、今まで以上に活用を進めたい。	地域との連携の一環として、地域行事への参加をお願いすることも多いが、教職員の方々も、家庭と仕事の両立を実現してほしい。そのためにも、地域でできることについては、地域も協力して行いたい。 閉校に向けた取組も入ることから、教職員の方々の仕事量も増えるのではないかと。心身の健康には十分気を付けてほしい。
		会議や学校行事の精選	職員朝礼や職員会議のもち方を工夫するとともに、学校行事の精選を実施する。	教職員肯定的評価80%以上(5-2)	A			
		校務DXの推進	校務DXの意識を持ち、保護者等からの連絡や回答をフォーム等を利用した対応を行う。	教職員の半数以上ができた(5-3)	A			
	部活動運営方針の徹底	部活動運営方針に沿った活動の実施	適切な活動時間・休養日を設けるとともに、充実した部活動となるよう、年間・月別計画を作成し、計画的な取組を行う。	教職員肯定的評価80%以上(5-4) 生徒肯定的評価80%以上(25) 保護者肯定的評価80%以上(質問20)	A	○教職員、生徒、保護者すべてにおいて肯定的評価が高かった。	・ガイドラインに沿った部活動経営方針、年間計画のもとで活動を行う。 ・地域資源(ヒト・モノ・コト)を積極的に活用し、生徒にとって有意義な活動を行う。	
外部指導者の活用を促進する。			教職員肯定的評価80%以上(5-5) 保護者肯定的評価80%以上(質問20)	A				
校内サポート体制の整備	学年部会及び分掌部会の活性化	定期的な部会の開催を促し、チームとして様々な活動に取り組めるようにする。	教職員肯定的評価80%以上(5-6)	A	○教職員同士が声を掛け合い、相談する様子が多くみられ、和やかな雰囲気である。また、各分掌において、適宜、話し合いが行われ、業務が行われていた。 ●ヘルスチェックが十分に実施できなかった。	・次年度は1学期終わり、2学期終わりにヘルスチェックを確実にを行う。		
		メンタルヘルス対策	ストレスチェックを実施し、結果をもとに必要に応じた対応を行う。	教職員肯定的評価80%以上(5-7)	C			